

令和7年度学校評価 生徒評価

No	実践目標	R7平均	R6平均	R5平均	R6比
1	教育設備や備品は充実している。	2.75	2.69	2.74	
2	学校H Pや学校通信、配布物などで、学校の教育目標や取組などがわかりやすく伝わる。	2.90	2.91	3.02	
3	規則・マナーを守る態度や行動を育てるために、生徒指導は適切に行われている。	3.01	3.00	3.10	
4	本校の部活動は充実している。	2.76	2.63	2.75	
5	本校の教員やキャンパスカウンセラーは、生徒の相談や悩みに適切に対応している。	2.99	2.90	2.99	
6	進路に関する情報が十分に提供されている。	3.07	2.97	3.05	
7	生徒個々の生徒の興味・関心や、学年段階に応じた適切な進路指導が行われている。	3.01	2.94	3.02	
8	学年通信や保護者会、三者面談、家庭連絡などで、学校の情報が伝わっている。	3.02	2.97	3.08	
9	本校の教員は、わかりやすい授業となるよう努めている。	2.98	2.88	3.02	
10	本校の教員は、生徒の学力を高めるために、十分に努力している。	3.03	2.92	3.06	
11	ボランティア活動や体験的な学習が充実している。	3.08	3.00	3.06	
12	本校の学校行事は充実している。	3.26	3.19	3.35	
13	防災、生徒の安全に配慮した教育を行っている。	3.05	3.00	3.13	
14	命を大切にする姿勢や人権意識を育てる教育を行っている。	3.03	3.04	3.10	
15	生徒の興味・関心、進路目標に応じた類型や選択科目が設定されている。	3.09	3.04	3.09	
16	教師と生徒間の関係は良好である。	3.15	3.03	3.13	
17	生徒間の人間関係におけるコミュニケーションは活発である。	3.22	3.12	3.15	
18	自分は、意欲的に授業に取り組んでいる。	3.03	2.97	2.97	
19	自分は、規則正しい生活が送れている。	2.98	2.97	2.88	
20	自分は、交流及び共同学習などを通じて、共生の思いが育まれている。	3.05	2.99	3.05	
21	自分は、情報モラルや携帯電話・インターネットの適切な活用力が身に付いている。	3.20	3.11	3.07	
22	自分は、充実した学校生活を送っている。	3.19	3.08	3.10	
23	自分は、本校に入学して良かった。	3.11	3.07	3.10	
	全体平均	3.04	2.98	3.04	

※0.3ポイント±に矢印を表記

＜分析＞ ・令和6年度平均と比較して、全体的にポイントを上げた。令和6年度3.0以上の項目が11項目あったが、令和7年度は18項目と大幅に増加した。NO4の部活動、NO6の進路、NO9、10の学習、NO16、17の人間関係に関する項目でポイントを0.1以上上げており、NO22の学校生活の充実感につながっている。ほとんどの項目で、前年度からポイントが上がっているが、NO2とNO14の2項目は、わずかながら前年度よりポイントを下げている。 ・NO21の情報モラルや携帯電話・インターネット等の適切な活用については、年々改善の傾向が見られる。TP Oやマナー指導等、日頃から意識をした生活を送る習慣が身に付いた結果であると考える。

令和7年度学校評価 保護者評価

No	実践目標	R7平均	R6平均	R5平均	R6比
1	教育設備や備品は充実している。	3.01	2.62	2.77	↑
2	学校HPや学校通信、配布物などで、学校の教育目標や取組などがわかりやすく伝わる。	2.72	2.76	2.89	
3	規則・マナーを守る態度や行動を育てるために、生徒指導は適切に行われている。	2.92	2.88	3.01	
4	本校の部活動は充実している。	2.61	2.56	2.56	
5	本校の教員やキャンパスカウンセラーは、生徒の相談や悩みに適切に対応している。	2.86	2.77	2.93	
6	進路に関する情報が十分に提供されている。	2.82	2.73	2.92	
7	生徒個々の生徒の興味・関心や、学年段階に応じた適切な進路指導が行われている。	2.88	2.79	2.95	
8	学年通信や保護者会、三者面談、家庭連絡などで、学校の様子、情報が伝わっている。	2.77	2.77	2.97	
9	本校の教員は、わかりやすい授業となるよう努めている。	2.87	2.81	2.82	
10	本校の教員は、生徒の学力を高めるために努力している。	2.89	2.84	2.88	
11	ボランティア活動や体験的な学習が充実している。	2.81	2.85	2.94	
12	本校の学校行事は充実している。	3.03	3.11	3.09	
13	防災、生徒の安全に配慮した教育を行っている。	2.86	2.81	2.94	
14	命を大切にする姿勢や人権意識を育てる教育を行っている。	2.82	2.79	2.99	
15	生徒の興味・関心、進路目標に応じた類型や選択科目が設定されている。	2.94	2.84	3.00	
16	教師と保護者の関係は連携もとれ、良好である。	2.81	2.75	2.82	
17	教職員の対応は、丁寧で適切である。	3.01	2.99	3.02	
18	お子様は、意欲的に学習に取り組んでいる。	2.70	2.73	2.60	
19	お子様は、規則正しい生活が送れている。	2.75	2.72	2.76	
20	お子様は、交流及び共同学習などを通じて、共生の思いが育まれている。	2.97	2.88	2.98	
21	お子様は、情報モラルや携帯電話・インターネットの適切な活用力が身に付いている。	2.78	2.81	2.90	
22	本校は、地域の期待に応える教育活動を行っている。	2.89	2.84	2.93	
	全体平均	2.85	2.80	2.89	

※0.3ポイント±に矢印を表記

<分析>

・令和6年度と比較して大きな変化はなく、ポイントは少し上がった。教育設備・備品が大きくポイントを上げてきており、ホワイトボードの導入、トイレや空調の整備など、これまで継続的に行われてきた事業が実を結んできているものとする。多くの項目でポイントが上がっているなかで、NO2、11、12は評価を下げている。NO18、21の家庭学習や情報モラルについてにも課題が見られる。

令和7年度学校評価 教員評価

No	実践目標	R7平均	R6平均	生徒	保護者
1	〔設備等の整備〕 教育実践の場として適切な設備や備品などが整備、運営されている。	3.0	3.3	2.8	3.0
2	〔地域への貢献〕 地域の行事や近隣の施設等に生徒会や部活動の生徒が参加し、地域に貢献し、開かれた学校づくりを推進する。	2.9	3.7		2.9
3	〔家庭や地域への情報発信〕 学校ホームページ(通信以外に月複数回更新) 、学校通信、学年通信を通じ、学校の情報を積極的に発信する。	3.0	3.4	2.9	2.7
4	〔家庭や地域への情報発信〕 オープンスクール、オープンハイスクール、中学校訪問、などを通じて地域に開かれた学校づくりを推進する。	2.9	3.6		
5	〔学校運営協議会の活用〕 学校運営協議会委員に日頃の本校の活動を見てもらい、日常的に率直な意見を聞き、学校運営に反映させる。	3.0	3.2		
6	〔生徒指導体制の充実〕 明確な生徒指導基準を設定し、生徒・保護者・教職員間でその共有を図り、指導の徹底を目指す。イエローカード等の活用を図り、学校内でのルール(服装・頭髮)や社会通念上のマナー等を遵守させ、学年が進むにつれ指導件数を減少させるよう規範意識を育てる。	3.0	3.3	3.0	2.9
7	〔生徒指導体制の充実〕 学校全体で登下校指導を行い、生徒のマナー等の向上を図り、交通安全指導や通学路の安全確保に努める。	3.1	3.5		
8	〔基本的生活習慣の確立〕 生活のリズムを整えさせ、規則正しく心身ともに健康な生活を送ることができる習慣を養う。特に遅刻指導を徹底し、遅刻数を半減させる。	2.6	2.9	3.0	2.8
9	〔部活動・自主活動の活性化〕 部活動オリエンテーションを実施し、1年生全員に部活動を体験させ部活動の入部率を上げ、全体の入部率を6割以上にする。ノー部活デーを踏まえ、生徒が自ら考え練習させ主体的な取り組みを行わせる。	2.6	2.8	2.8	2.6
10	〔生徒の内面の理解を図る指導の工夫〕 生徒との個人面談を早期に実施し、内面理解を図る。生徒実態調査やi-check、CoCoLo-34等のアンケートを活用し、各生徒の状況を把握し、必要に応じて生徒・保護者をキャンパスカウンセラーにつなぎ、教育相談を受けさせる。いじめ対応チームを中心に、組織としていじめ認知を積極的に図る。また被害生徒ケア並びに加害生徒への成長支援を充実させる。	3.2	3.4	3.0	2.9
11	〔生徒の内面の理解を図る指導の工夫〕 社会人基礎力を培う生徒指導をすすめ、生徒が主体的にスマートフォン・携帯電話やネットの問題を考え改善をすすめるよう指導する。	2.8	3.1	3.2	2.8
12	〔進路指導体制の充実〕 L H R、総合的な探究の時間など各学年段階に応じた計画的な進路指導計画を作成し、体系的な進路指導を実施する。指導に際して、進路データ・情報および「進路の手引き」を活用し、生徒・保護者に必要な情報を提供する。	2.7	3.1	3.1	2.8
13	〔社会的自立に向けた進路意識の向上〕 キャリア教育の視点に立って、就業体験（インターンシップ）や企業見学、オープンキャンパスや外部講師を活用した進路別学習会に参加させ、体験を通して進路意識を高める。	3.2	3.2	3.0	2.9
14	〔個別指導の充実〕 進路実現に向けて、補習授業や模擬試験、面接練習などを効果的に実施する。更に、挨拶の仕方、話し方、聞き方などの就労支援（ソーシャルスキルトレーニング）を実施し、社会性を培う。	3.2	3.1		
15	〔指導力の向上〕 カウンセリング研修や救急救命法など外部講師の活用や他校の有効な情報を共有化するなど校内研修の充実を通して、教員の資質向上を図る。	3.1	3.2		
16	〔実効ある危機管理マニュアルの策定〕 防災マニュアル等を見直し、校内の組織化と役割分担を明確化する。また、病院、警察、自治体、自治会など関係諸機関と連携する。	3.1	3.2		
17	〔学年・学級経営〕 生徒、保護者のニーズを把握し「夢の実現」に向けて、学年・学級で実践目標を立て、その実現に向けて努力する。取り組み状況を学年通信で伝え、保護者会、三者面談、メールアプリ等で家庭との連絡を密にとり、信頼される学校づくりを推進する。	3.3	3.4	3.0	2.8
18	〔PTCAとの連携〕 地域の環境整備活動、学校行事などへの積極的な参加協力により、教育目標の具体化を図る。	2.4	3.4		
19	〔体験的な学習の展開〕 ボランティア実践やふれあい育児体験など、地域の教育資源を生かし、本校の特色を生かした体験的な学習の充実を図る。	3.0	3.2	3.1	2.8
20	〔生涯学習の視点に立った実践能力〕 漢字検定や英語検定、情報処理検定等の資格取得を目指し、生涯を通じて学び続ける意欲と態度を育成する。	2.9	3.1		
21	〔わかる授業の展開〕 授業アンケートを行い、生徒にとってわかりやすい授業を行うべく授業改善に努める。生徒が主体的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」の手法を取り入れ、生徒個々の学力に応じた指導方法を工夫する。	2.7	3.1	3.0	2.9
22	〔個に応じた学習指導の徹底〕 定期考査や模擬試験等の結果を分析し、生徒個々の学力を的確に把握し、習熟度別授業、週末課題、指名・希望補習等必要な指導を行うことで学力の定着を図る。	3.0	3.1	3.0	2.9
23	〔創意工夫を生かした実践の展開〕 “探究”への姿勢がより重要になってくるこれからの教育の充実を図るため、「総合的な探究の時間」2・3年では、生徒自らが課題設定を行い、ゼミ形式での探究活動を行う形を、教科横断的に実践する。	2.7	3.2	3.0	2.7
24	〔生徒の自主的な活動の活性化〕 学校行事やボランティア活動において、生徒会等が企画、運営にかかわり、生徒の自主・自立の意識を高める。	3.2	3.1		

25	〔防災・安全教育の充実〕 自然災害や不審者の侵入など不測の事態に適切に対応できるように、行事や共同学習中等様々な条件下で避難訓練を行い、防災・安全教育の充実を図る。	3.1	3.3	3.1	2.9
26	〔人権教育推進体制の確立と人権意識の涵養〕 学年と人権教育委員会が連携し、ホームルームや講演会などを活用して計画的な人権教育を展開し、自他の命を大切にし、自他に対する肯定的な態度を育てるなど、共生社会に向けて、人権に対する理解と意識を高める。	2.6	3.1	3.0	2.8
27	〔情報活用能力の育成〕 情報機器の基本的技術及び情報活用能力を育成し、情報処理検定などの資格取得を目指す。	3.1	3.2		
28	〔特色ある教育課程の編成〕 興味・関心や進路希望等に対応できる教育課程を編成し、学校設定科目や多様な選択科目の内容を検証し、特色化と内容の充実を推進する。	3.0	3.2	3.1	2.9
29	〔特色ある教育課程の編成〕 自己探究類型の福祉、情報・商業、保育・教育、医療・看護の4分野についてこれまでの取組を検証し、内容の充実を図る。	3.1	3.2		
30	〔外部講師の活用〕 魅力アップ推進事業、特別非常勤講師等の外部講師を活用した授業や部活動指導、講演会などを通して、生徒の多様な興味・関心に応える教育を展開する。薬物乱用防止、DV防止、情報モラル啓発等、様々な場面で活用をすすめる。	3.1	3.3		
31	〔交流及び共同学習の推進〕 交流及び共同学習や体験学習を通じて、共生の心を育み、自己有用感や自尊感情を育成する	3.1	3.3	3.1	3.0
32	〔勤務の適正化〕 勤務の適正化を図り、ワーク・ライフ・バランスを確立するとともに、生徒と向き合う時間を確保する。	2.8	3.3		
	全体平均	3.0	3.2		

＜分析＞

- ・教員評価は令和6年度と比較して全体的にポイントを下げた。その中で、NO14個別指導、NO24生徒の自主的な活動については、昨年度よりポイントを上げた。各教員が生徒個々にあった指導を行うとともに生徒の自主性を高める取組にも注力し、手応えを感じている様子が伺える。
- ・同項目の比較では、生徒が高評価をつけている項目が多い一方で、保護者の評価が低い項目が目立つ。学校ホームページや通信などの各種広報手段や面談、日常の連絡などを通じ、学校の取組を理解してもらう努力が必要である。